

2012年11月吉日

JTBグループ労働組合連合会第8回震災復興支援ボランティア活動レポート

日時：2011年11月17日（土）～11月18日（日）

場所：福島県南相馬市小高区

参加人数：26名（連合会幹事含む）

報告者：i.JTB労働組合 谷口 真奈美

1. 活動参加にあたって

初めて（人生で初）のボランティア参加である。私自身の生まれが南相馬市で幼少時代を過ごした土地であり、隣の相馬市には祖母宅、近隣に親戚・知人が多い場所であったため、今回のボランティア募集で南相馬の文字を見た時には「絶対に参加したい」という思いと地元民としての「有り難い」という気持ちがあった。南相馬市および相馬市は沿岸部の津波災害もさることながら内陸部では原発の被害を受けているが、なかなかメディアに取り上げられる機会がない。復興に対して個人でできることには限りがあり、今回のボランティア活動に参加できたことは貴重な体験となった。

2. 活動内容

今回のボランティア活動先である南相馬市小高（おだか）区は先日まで福島第1原発事故で警戒区域に指定されていた経緯があり、区民の皆様が生活基盤をすぐに移せるようにするための目的で行われている。

※小高区は現在もゴーストタウンに近い状態で広大な田畑は荒れ、とてもではないが個人で対応ができない状態であることが町並みを一見して理解できた。

11月17日（土）

6：00頃 仙台市内ホテルを出発。途中に相馬市にある道の駅に休憩で立ち寄る。祖母の実家に近くとても懐かしい風景である。

8：00頃 バスで2時間、南相馬市ボランティアセンターに到着。センター長のボランティアに対する熱い思いと社協会長からの地元民を代表した御礼の言葉をいただき気持ちが引き締まる。

9：00頃 作業開始。私たちが今回この2日間で担務する具体的作業内容は個人宅（畑・庭）の草刈りである。かなり広い土地であることと、雑草等がこの夏の間を生い茂ったことで最初から苦戦。また、当日は天候悪く途中から雨が降り、体も冷える中で皆黙々とボランティア精神で作業を進める。

11月18日（日）

出発から作業開始までは前日と同様。

早めに到着したことによりボランティアセンターから徒歩2分程度の知人宅へ参ってみる。生憎で留守であったため挨拶はできず。天候は前日と打って変わって好天気。人生初めての草刈り機の操作に戸惑いつつも草刈りに没頭。諸事情により帰阪のため作業を午前中で切り上げて途中離団。かなり作業が進んだ草刈りであったが、完了まではあと数歩及ばず。まだもう少し進めることができたのではないかという思いが残る。

### 3. 活動に参加しての感想

すべての草刈りを終えることはできなかったことから後悔もあるが、参加期間中に精一杯作業を行った達成感もある。また、遣り切ったことによりボランティアへの参加意欲が芽生え、ハードルが高いと思っていたボランティアがより身近に感じる事ができて、自身の成長に繋がった。

仙台空港までの帰路に車窓見学で立ち寄りを希望していた相馬港（松川浦）を通る。自身が幼少の頃より海水浴などで親しんだ場所であり、今回の津波で多大な被害がでた場所でもある。相馬港周辺は復興手付かずといった具合で津波直後を彷彿とさせる風景もあり、言葉を失う。もちろん海水浴を楽しんだ砂浜や海の家は跡形もなかった。震災前の風景を取り戻すことはできないが、できる限り近い状態に一日でも早く復興できることを祈るばかりである。

震災復興支援ボランティアは活動を遣り切った達成感で終わるのではなく、復興がこれからという場所が多く残っている福島県、南相馬市・相馬市という場所があることを一人でも多くに伝えることもボランティア活動の一つだと実感した。 以上

